

外国語教育メディア学会（LET） 関西支部 2021 年度秋季研究大会 発表要項集



日 時： 2021 年 12 月 12 日（日） 10：15 ～ 17：00

場 所： オンライン開催（要事前申込）

主 催： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部
<http://www.let-kansai.org/>

事務局： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部事務局
〒675-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1
神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター
大和 知史 研究室内
E-mail： kansaiet@gmail.com

プログラム

10:00 受付開始

10:15-10:30 開会行事

司会◆ 大和 知史 (事務局長・神戸大学)

挨拶◆ 菅井 康祐 (支部長・近畿大学)

LET 関西支部 研究部会による研究成果

10:30-12:00 ワークショップ形式1：中高授業研究部会

「中学校英語教育こそ大切！」

講師◆ 大塚 恵理 (京都市立上京中学校) ・ 西本 有逸 (京都教育大学)

司会◆ 今井 由美子 (同志社女子大学)

10:30-12:00 ワークショップ形式2：メソドロジー研究部会

「APA 7th になって何がかわったの？」

講師◆ 住 政二郎 (関西学院大学)

司会◆ 深田 将揮 (神戸学院大学)

10:30-12:00 ワークショップ形式3：電子語学教材開発研究部会

「実演！すぐに使えるリモートワークハック術特集」

講師◆ 木村 修平 (立命館大学) ・ 近藤 雪絵 (立命館大学)

司会◆ 戸田 行彦 (滋賀県立守山中学校・高等学校)

10:30-11:00 研究発表形式：基礎理論研究部会

「英語フォーミュラ学習のためのオンライン学習システムの開発」

講師◆ ラフラー ルイ (立命館大学) ・ 金澤 佑 (関西学院大学)

泉 恵美子 (関西学院大学) ・ 門田 修平 (関西学院大学)

堀 智子 (順天堂大学) ・ 松田 紀子 (近畿大学)

司会◆ 近藤 睦美 (京都外国語大学)

10:30-12:00 シンポジウム形式：早期英語教育研究部会

「ライティングにおけるアウトプットの重要性」

講師◆ 辻 香代 (大阪市立大学) ・ 檜本 洋子 (四天王寺大学)

斉藤 倫子 (関西学院大学) ・ 井狩 幸男 (大阪市立大学)

司会◆ 鬼田 崇作 (同志社大学)

12:00-13:00 昼食

13:00-14:50 研究発表・実践報告・Classroom Tips ① 13:00-13:30 ② 13:40-14:10 ③ 14:20-14:50

第1室 (研究発表)

司会◆ 戸田 行彦 (滋賀県立守山中学校・高等学校)

- ① [研] 日本語版 L2 Grit 尺度の作成と日本における L2 Grit の予備調査：
英語力および L2 学習動機づけとの関係から
山中 由香 (近畿大学) ・ 古屋 あい子 (玉川大学)

- ② [研] 中級日本人英語学習者による「不平」の連鎖の分析
鈴木 浩輔 (広島大学 大学院生)

第2室 (研究発表)

司会◆ 今井 由美子 (同志社女子大学)

- ① [研] シャドーイングの効果に対する学習者の意識
中西 のりこ (神戸学院大学) ・ 峯松 信明 (東京大学)
梶原 卓弥 (東京大学 大学院生)
- ② [研] 新学習指導要領の教科書に基づいた語彙リスト開発と語彙プロファイリング
アプリケーションを利用した検証
水本 篤 (関西大学)

第3室 (実践報告・Classroom Tips)

司会◆ 鬼田 崇作 (同志社大学)

- ① [CT] 非同期型授業を補完する同期型オンライン講座
山内 勝弘 (広島大学) ・ 山内 優佳 (広島大学)
中川 篤 (広島大学) ・ 榎田 一路 (広島大学)
- ② [CT] Google Slides をミニ黒板として使用する
真島 由朱 (大阪府立箕面高等学校)
- ③ [実] 遠隔授業における共同体の活性化：身体性を生かしたリーディング授業の試み
山本 玲子 (京都外国語大学)

14:50-15:00

休憩

15:00-16:50

LET 関西支部 研究部会によるシンポジウム

(途中休憩あり)

「New Normal 時代 LET 関西の各研究部会はこの新時代にどう立ち向かっていくのか」

司会◆ 深田 将揮 (神戸学院大学)

講師◆

基礎理論研究部会

金澤 佑 (関西学院大学)

中高授業研究部会

今西 竜也 (京都教育大学附属京都小中学校)

西本 有逸 (京都教育大学)

英語発音教育研究部会

有本 純 (関西国際大学)

早期英語教育研究部会

井狩 幸男 (大阪市立大学)

メソドロジー研究部会

浦野 研 (北海学園大学)

電子語学教材開発研究部会

木村 修平 (立命館大学)

近藤 雪絵 (立命館大学)

16:50-17:00

閉会行事

司会◆ 大和 知史 (事務局長・神戸大学)

挨拶◆ 名部井 敏代 (副支部長・関西大学)

お知らせ

- 大会の参加申し込みは、12月9日(木)正午までに、<https://let-kansaichapter-2021-fall.peatix.com> から参加登録をお願いします。(期限までにチケット終売の可能性もあります。期限を過ぎてお申し込みをすることができません。)
- Zoom セッションにご参加いただく場合、事前に登録されたお名前を表示いただくようお願いいたします。
- 研究発表・実践報告・Classroom Tips の発表の間に、賛助会員からのご案内があります。

中高授業研究部会

「中学校英語教育こそ大切！」

大塚 恵理（京都市立上京中学校） 西本 有逸（京都教育大学）

小学校英語教育は早期化・教科化・検定教科書の使用とともにスタンダード化が一層進んでいます。続く中学校英語教育こそが実は大切である、と発表者は考えています。外国語学習に必須の高次な心理機能である概念形成が高まるのは思春期において、だからです。

今年度から新学習指導要領が中学校で施行され、新しい教科書が登場しました。教育内容・言語活動が盛り沢山になりました。その報告とともに、今回の発表では小学校と中学校の連携のあり方、知識・技能、思考力・判断力・表現力の育成を志向した授業、三観点の評価、パフォーマンス評価の実際、定期テスト等について、参会者のみなさまと考えたいと思います。

メソドロジー研究部会

「APA 7th になって何が変わったの？」

住 政二郎 (関西学院大学)

1929年に7ページの規定として誕生したAPA Styleは、その後改訂を重ね、2020年に第7版になりました。第5版から読み始め、その後、第6版を院生時代に悪友らと読みあさり議論したのを懐かしみながら、今回、カラフルに、そして豊富なサンプルを掲載し、より学生向けに改訂された第7版を手にして、執筆と編集に関わった研究者らの努力と時間の流れを感じました。

APA Styleは、参考文献の書き方や、書式に関するルールをまとめたもの、と表面的に理解されがちです。また、改訂を重ねる毎に「変わったこと」として取り上げられ、ネットに溢れるのは、やはり文献一覧や書式に関するものが目立ちます。しかし、通読してみると「変わったこと」よりも、実は1929年から「変わっていないこと」の重要性が際立ちます。なぜ、こうしたルールが必要とされたのか、なぜ、こうしたルールを共有し、書き続けることが大切なのか、APA Styleは、改訂を重ねる毎に、より明確にその理由を伝えています。

本ワークショップでは、第7版になって「変わったこと」を取り上げながらも、「変わっていないこと」にもフォーカスして紹介します。また、「変わったこと」の中でも、あまり知られていないルールや、よく間違えてしまうルールについて紹介します。「変わっていないこと」の初期設定を理解し、「変わったこと」をアップデートすることで、研究・教育に役立つものがあれば幸いです。Zoomという限られた環境ではありますが、前半では第7版の概説を行い、後半ではクイズ形式でワークショップを進めていきたいと思っております。みなさまの参加をお待ちしております。

American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (6th ed.).

American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.).

Hatala, M. (2020a). *APA simplified: Your concise guide to the 7th edition*. Greentop Academic Press.

Hatala, M. (2020b). *APA style disasters: Learning to write 7th edition APA style from the mistakes students make by Mark Hatala, Ph.D.* Greentop Academic Press.

International DOI Foundation. (2013, April 2). *shortDOI@ service*. <https://shortdoi.org/>

McAdoo, T. (2011, March 10). *Spelling success in APA style*. *APA Style*. <https://blog.apastyle.org/apastyle/2011/03/spelling-success-in-apa-style.html>

McAdoo, T. (2019, October 25). *Shortened URLs in APA style references*. *APA Style*. <https://apastyle.apa.org/blog/shortened-urls>

住政二郎 (2010). *Learning APA style: Basic*. LET 関西支部メソドロジー研究部会. http://lang-tech.net/doc/APA_ver.2.1.5.pdf

竹内理・水本篤 (編著) (2012). 『外国語教育研究ハンドブック-研究手法のより良い理解のために』 松柏社

電子語学教材開発研究部会

「実演！すぐに使えるリモートワークハック術特集」

木村 修平（立命館大学） 近藤 雪絵（立命館大学）

オンライン授業を含む語学教員のリモートワーク効率を向上させるZoomなどの便利なノウハウや小技を電話研の先生方に紹介していただく。また、フロアにも情報共有を呼びかける。

基礎理論研究部会

「英語フォーミュラ学習のためのオンライン学習システムの開発」

ラフラー ルイ (立命館大学)

金澤 佑 (関西学院大学)

泉 恵美子 (関西学院大学)

門田 修平 (関西学院大学)

堀 智子 (順天堂大学)

松田 紀子 (近畿大学)

フォーミュラ（二語以上からなる定型表現；複数語連鎖）についてこれまで国内外で多くの研究や実践の蓄積があるものの、フォーミュラを効果的に学習するための方法についての研究は限られている。発表者らの共同研究では、大学授業実践等の場で広く活用できる実行可能性の高いフォーミュラ学習を目指して、オンラインフォーミュラ学習システムを構築した。本発表では、その作成に至る背景や手法を中心に報告する。

早期英語教育研究部会

「ライティングにおけるアウトプットの重要性」

辻 香代 (大阪市立大学) 檜本 洋子 (四天王寺大学)
斉藤 倫子 (関西学院大学) 井狩 幸男 (大阪市立大学)

LET 関西春季研究大会、LET 全国研究大会で行ったシンポジウムでは、音声言語に焦点を当て、習得過程でアウトプットの果たす役割について発表した。今回は、書記言語を取り上げ、ライティングによるアウトプットの重要性を中心に発表する。

発表は、大学生のライティング能力に対する評価を皮切りに、そこにつながる中高生のライティング活動の分析と考察を行い、その後、小学生のライティング能力を育成するための具体的な活動を検討する。そして最後に、乳幼児から成人に至る言語発達において、書記言語を習得することの意味を脳科学研究から得られた知見を基に考察する。

英語教育は、国際情勢や社会状況等の影響を受け、新たな局面にある。グローバル社会へと英語で発信する能力・技能を育成する必要性 (中央教育審議会, 2014) が高まる中、大学における英語ライティング教育を取り巻く動向がどのように変化したのかを概観する。その上で、実際の学生のライティング・テキストを分析・考察し、その課題を具体的に提示しながら、大学におけるライティングの目標を検討する。

大学での目標設定を受けて、中学校、高等学校での「書くこと」の目標を考える。中高では、自分の意見を書けることが目標とされているにも拘わらず、ライティング活動のための時間がかなり限られており、自分の意見を論理的な展開で書く機会を十分に与えられていないことが報告されている。この現状を概観するとともに、ライティングが本来どのような活動であるかを再考し、ライティングがスピーキングと同じように、いかにインプットを支えているかということについて考察する。

小学校外国語科における「読み・書き」に関する目標と、検定教科書に記載されている活動例を紹介した上で、中学校、高等学校の到達目標から逆向き設計した際に求められる小学校段階でのライティングについて考察する。そして、現行の高学年で行われている写し書きや文の一部の入れ替えにとどまらず、児童が「本当に書きたいこと」を書けるように指導し、「書く」というアウトプットを通して、より論理的に考える力を育成する道筋を提案する。

上記の発表を踏まえつつ、本シンポジウムのタイトルに暗示されるライティング活動自体に含まれるアウトプットの要素以外の側面を、神経心理言語学の観点から分析し、ライティング教育の在り方と方向性を検討する。

参考文献

- 中央教育審議会 (2014). 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～ (答申)」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf
- 西岡加名恵編 (2008). 『逆向き設計で確かな学力を保障する』 明示図書.

日本語版 L2 Grit 尺度の作成と日本における L2 Grit の予備調査： 英語力および L2 学習動機づけとの関係から

Development and Implementation of an L2 Grit Scale for the Japanese EFL Context:
English Proficiency and L2 Learning Motivation

山中 由香 (近畿大学) 古屋 あい子 (玉川大学)

キーワード： L2 Grit、英語力、L2 学習動機づけ

1. はじめに 心理学分野では近年、Grit (やり抜く力) が注目されている。Gritとは「興味の一貫性」と「努力の粘り強さ」から構成されており、長期的目標の達成に効果があると考えられている (Duckworth et al., 2007)。しかしながら、英語教育分野においては、Teimouri他 (2020) によりL2 Gritを測る尺度が作成されたものの、L2 Gritに関する研究はあまりない。そこで、日本のEFL学習者におけるL2 Gritを明らかにするため、日本語版L2 Grit尺度を作成し、大学生を対象に、L2 Gritにおける英語力およびL2学習動機づけとの関係を調査した。その際、L2に特化したGritの重要性を明らかにするため、Gritおよび長期的目標の達成に関連すると考えられる性格特性についても取り上げた。

2. 参加者と手順 参加者：関西圏および関東圏の日本人大学生 124 名 (男性 52 名、女性 70 名、その他 2 名) 手順：(1)原著者 (Teimouri et al., 2020) の許可を得た上で L2 Grit 尺度を翻訳し、日本語版 L2 Grit 尺度を作成した。(2)①作成した L2 Grit、②L2 学習動機づけ、③Grit、④性格特性、の 4 つすべての尺度と英語力を含む質問紙調査を 2021 年度春学期に Google Forms にて実施した。

3. 質問紙 次の 4 つの尺度と英語力 (TOEIC® Listening & Reading Test)に関する質問から作成した。①日本語版 L2 Grit 尺度 (「興味の一貫性」4 項目、「努力の粘り強さ」5 項目の計 9 項目から構成) ②L2 学習動機づけ尺度 (Yashima, 2002) (「英語学習動機の強さ」6 項目、「英語学習の意思・願望」6 項目の計 12 項目から構成) ③日本語版グリット尺度 (竹橋他, 2019) (「興味の一貫性」6 項目、「努力の粘り強さ」6 項目の計 12 項目から構成) ④日本語版 Ten Item Personality Inventory (小塩他, 2012) (「外向性」2 項目、「協調性」2 項目、「勤勉性」2 項目、「神経症傾向」2 項目、「開放性」2 項目の計 10 項目から構成)

4. 結果と考察 (1)確証的因子分析の結果、日本語版 L2 Grit 尺度では「興味の一貫性」と「努力の粘り強さ」のどちらにも属さない項目が 1 つ見つかった。(2)(1)で見つかった項目 1 つを除いた日本語版 L2 Grit 尺度を使用し、重回帰分析を行った結果、Grit と性格特性を統制した場合、L2 Grit は英語力には影響が見られなかった。しかし、L2 Grit の「興味の一貫性」のみ英語力に対して正の影響の傾向を示した。また、(3)L2 Grit と L2 学習動機づけとの関係においては、L2 Grit の「努力の粘り強さ」のみが L2 学習動機づけに正の影響を示した。

参考文献

Teimouri, Y., Plonsky, L., & Tabandeh, F. (2020). L2 grit: Passion and perseverance for second-language learning. *Language Teaching Research*. Advance online publication. <http://dx.doi.org/10.1177/1362168820921895>

中級日本人英語学習者による「不平」の連鎖の分析

Analyzing L2 Complaint Sequences by Intermediate Japanese Learners of English

鈴木 浩輔 (広島大学 大学院生)

キーワード：第二言語語用論, Complaint sequences, Applied conversation analysis, 回顧的口頭報告

1. はじめに

日本人英語学習者の「不平」発話行為の特徴に関して、主に Written discourse completion test (WDCT) にてデータを収集し研究が進められてきた。しかし、WDCT では発話の連鎖などの典型的な会話の特徴を見ることができないという深刻な問題が指摘されている (Culpeper, Mackey, & Taguchi, 2018)。そこで、より妥当性が高いオープン・ロールプレイを用いてインタラクションを誘出し、会話分析を応用してその談話を分析する研究が近年多くなされるようになってきている。しかし、日本人英語学習者による「不平」の連鎖を対象として分析した研究は見当たらず、その特徴は明らかにされていない。本調査では、オープン・ロールプレイと会話分析を応用し、日本人英語学習者による「不平」の連鎖の特徴を分析する。またデータ収集のトライアングレーションの点から回顧的口頭報告を行う。

2. 参加者と手順

参加者は、広島県内の大学で様々な学部所属する大学1年生の日本人英語学習者7名である(男性4名、女性3名)。TOEICの得点は、中央値が675点、四分位範囲は140である。参加者は、場面についてのカードを受け取り、ロールプレイ対話者とオープン・ロールプレイを行った。対話者は、英語母語話者のイギリス人男性大学教員と、英語母語話者と同等に英語が流暢なインドネシア人女性大学院生であった。対話者には、参加者とは異なるロールプレイカードが渡された。その後、録画した発話を会話分析の慣例に従い文字起こしし、分析を行った。また、ロールプレイ中の参加者の意識や困難であった点を調べるため、回顧的口頭報告を行った。

3. オープン・ロールプレイの場面

力関係と社会的距離が異なる2場面(教授場面、友人場面)を作成した。教授場面は、社会的距離がある教授に成績について「不平」を言う場面で、イギリス人大学教員が教授役となった。友人場面は、社会的距離が近い友人にお金について「不平」を言う場面で、インドネシア人大学院生が友人役となった。

4. 結果と考察

教授場面では、参加者が「準備」に続き「不満」、「依頼」、「疑問」を理由と共に発し、教授役が「拒否」や「正当化」を行うやりとりを数回繰り返した後、教授役が「提案」という連鎖が多く見られた。友人場面では、参加者が「ほめかし」や「疑問」から「不平」の連鎖を始め、友人役が「謝罪」し、参加者が「依頼」をするという連鎖パターンが多く見られた。また、両場面とも「依頼」部分にて、please や want が多く用いられていた。

参考文献

Culpeper, J., Mackey, A., & Taguchi, N. (2018). *Second language pragmatics: From theory to research*. Taylor and Francis.

シャドーイングの効果に対する学習者の意識

Learners' Awareness of the Effects of Shadowing

中西 のりこ(神戸学院大学)

峯松 信明(東京大学)

梶原 卓弥(東京大学 大学院生)

キーワード: シャドーイング, 学習効果, 学習者の意識

1. 背景

シャドーイングが L2 学習者の口頭能力に及ぼす影響には、音声知覚の自動化・新規学習項目の内造化・プラクティス効果・アウトプット効果などがあることが知られている。一方、シャドーイングによって期待される効果を学習者自身が把握し目的意識を持って取り組まなければ活動が意味をなさない(門田,2015,p.2)。そこで本研究では、2021 年度前期に「英語会話(履修必修科目)」を受講した関西の大学 1,2 年次生 ($n = 227$) を対象にシャドーイング課題を課し、その課題の目的や効果が彼らにどのよう受け止められているかを探った。

2. 方法

シャドーイング素材には、受講者にとって初出の音声を用いた(門田, 2015, p. 247)。オンライン上で 0.8 倍速で再生される英検 2 級リスニングパッセージ(約 30 秒)のシャドーイングを 3 回繰り返し、その後提示されるスクリプトを見ながら音声に合わせてシンクロ・リーディングを行うという手順で、1 回あたり 4 パッセージの自宅課題を、2 週間に 1 回のペースで合計 5 回課した。2 回目の課題以降は、前回と同じパッセージの音読の後で、新たな音源を提示した。受講者の音声自動的に記録されるシステムを準備し、それぞれの段階の録音音声を比較することによって得られる「聞く力・理解する力・真似る力」を「調音・高さ・強さ・長さ」の観点から算出したスコアシートを各受講者に返却した。前期授業の最終日に、シャドーイングを含むオンライン課題に対する受講者の意識を探るため、アンケート調査を実施した。本発表では複数の調査項目のうち、オンライン課題全般とシャドーイング課題の 2 項目についての回答集計結果を報告する。

3. 結果

194 名(回答率 85.5%)の受講者から寄せられたアンケート結果によると、英語会話授業シラバス記載の到達目標に近づくために役立つ課題として、9 種類のオンライン課題のうちシャドーイングが最も高い評価を得た。さらに、シャドーイング課題に関する自由記述(総語数 2,912 語)から出現頻度上位 60 語を抽出し共起ネットワークを作成した。その結果、1) 自分の音声を録音して客観的に確認する機会が今までなかった、2) 回を重ねるごとに聞き取れるようになった、3) 単語レベルではなく文全体の意味を理解できるようになった、4) 自分の英語発音に意識を向けるようになった、5) 音の強弱に気をつけて発音するようになった、6) 最後に提示されるスコアを見て上達が感じられる、7) リスニング・スピーキング力が向上した、といったカテゴリーに分類された。このことから、これまでの学習方法についての気づきとともに、音声知覚と意味理解の向上、音声産出面では分節音と強勢に対する意識づけを通して、シャドーイング課題がリスニング・スピーキング両面に効果があると捉えられていることが示唆された。

参考文献

門田修平.(2015). 『シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学』コスモピア.

新学習指導要領の教科書に基づいた語彙リスト開発と 語彙プロファイリングアプリケーションを利用した検証

Development of a Vocabulary List Based on the New Course of Study and Its Validation
Using a Vocabulary Profiling Application

水本 篤(関西大学)

キーワード： 語彙, 語彙リスト開発, ウェブアプリケーション

1. はじめに

2020年から実施されている新しい指導要領では、学習する英単語数が大きく増え、小学校で600-700語、中学校で1,600-1,800語、高校で1,800-2,500語となっており、合計で4,000-5,000語になっている。大規模コーパスを利用した、新JACET8000(大学英語教育学会基本語改訂特別委員会, 2016)のような日本人英語学習者向けの語彙リストの開発により、より学習効率の高い、学習者が学ぶべき英単語はある程度特定できるものの、新学習指導要領の教科書での語彙使用との関係は明らかになっていないため、本研究では、新学習指導要領の教科書に基づいた語彙リストを開発し、その有用性の検証を行った。

2. 語彙リストの開発

2020年以降の新学習指導要領の教科書に基づいた語彙リスト(JET2020)は以下の手順で作成された。

- (1) 中学校教科書で「小学校で学習したとみなしている」628語を小学校レベルとした。
- (2) 6社の中学校教科書のうち、2社以上で出現している1,758語を中学校レベルとした。
- (3) 上記1, 2に含まれない語で、新JACET8000で3,000語から5,000語レベルまでの3,039語を高校レベルとした。

3. New Word Level Checker への掲載

開発したJET2020をNew Word Level Checker (Mizumoto, 2021)に取り入れ、いくつかの英文カバー率を確認した。New Word Level Checkerには、新JACET8000をはじめとする日本人英語学習者向けの語彙リストがすでに掲載されており、2021年度実施の大学入学共通テスト(英語リーディング&リスニング)をそれらで分析すると95%から98%の語彙カバー率が達成できると報告されているため(Mizumoto et al., in press), それらの語彙リストとの比較も行った。

4. 結果と考察

分析の結果、新学習指導要領の教科書に基づいた語彙リスト(JET2020)は、各種英文を95%以上カバーできることが明らかになり、他のNew Word Level Checkerに掲載されている学習語彙リストと比較しても、日本人英語学習者が学ぶべき語彙をより明確に示すことができるため、その有効性が確認された。発表では、この結果から示唆される、新学習指導要領の下での語彙学習・指導の在り方について議論する。

参考文献

大学英語教育学会基本語改訂特別委員会 (2016). 『大学英語教育学会基本語リスト新JACET8000』 桐原書店

Mizumoto, A. (2021). *New Word Level Checker* [Web application]. <https://nwlc.pythonanywhere.com/>

Mizumoto, A., Pinchbeck, G. G., & McLean, S. (in press) Comparisons of word lists on New Word Level Checker. *Vocabulary Learning and Instruction*.

非同期型授業を補完する同期型オンライン講座

Synchronous Online Lessons as a Complement of Asynchronous Classes

山内 勝弘(広島大学) 山内 優佳(広島大学)
中川 篤(広島大学) 榎田 一路(広島大学)

キーワード：同期型オンライン講座, Zoom, MS Teams

2020年度より広島大学の必修英語科目は原則オンライン授業として実施されている。とりわけ、リーディング・リスニングの授業では非同期型の授業方式を採用し、学部1年生のおよそ半数が受講している。2021年度前期では非同期型の通常授業に加え、任意参加の同期型オンライン講座を毎月行い、通常授業を補足するようにした。本発表ではこの同期型オンライン講座がどのように進められ、どのような成果や課題が見られたのか紹介したい。

Google Slides をミニ黒板として使用する

Using Google Slides as a Mini Blackboard

真島 由朱(大阪府立箕面高等学校)

キーワード : Google Classroom, Google Slides, グループワーク

生徒に問題の答えや意見を答えさせるのに教室の黒板に書かせたり、グループ活動でまとめた意見を回答するのにミニホワイトボードを使うことがある。今年度、GIGA スクール構想によって、全生徒に Chromebook が配布されたことを受け、Google Classroom と Google Slides をその代用として用いるアイデアを紹介する。最も大きな利点は「見やすさ」であるが、その他の利点も紹介したい。

遠隔授業における共同体の活性化： 身体性を生かしたリーディング授業の試み

Activation of Collaborative Learning Online: A Trial Reading Lesson Based on Body and Mind

山本 玲子(京都外国語大学)

キーワード： 身体と情動，ソーシャルプレゼンス，遠隔授業

1. はじめに

2020年度から2021年度にかけて小中高の遠隔授業における指導実践例が蓄積され、今後教育そのものが大きく変わる可能性も指摘されている。一方で、対面授業には身体性、すなわち身体反応・情動的反応を教員と学習者集団が共有することを通して共同体意識が育つ利点がある。特に身体を使う音読をクラスという共同体で行う効果、すなわち「教室におけるムードの効力」が遠隔で得にくい点に着目し、社会的存在感（ソーシャルプレゼンス）という切り口から共同体の活性化をめざす研究を開始した。

2. リサーチクエスト

授業へのコミットメントの向上は遠隔でも工夫次第で可であるが、「横のつながりの構築」には困難が伴う（吉見、2021）。山田・北村（2010）は社会的存在感を高める具体的手段として、教員の自己開示（感情表出）、明示的な学習者の発話引用、宛名（個人・共同体）のある呼びかけを挙げている。書物との対話も提案されている（竹内、2020）。先行研究に則ったリーディング指導を構築するに当たり、「共同体の活性化の工夫は遠隔授業にどのような効果を及ぼすか」を本研究のリサーチクエストとした。

3. 参加者と手順

検証授業の参加者は、英語が専攻ではない大学1回生18名と、英語専攻の短期大学1回生18名である。Microsoft Teams（会議機能を使用）をプラットフォームとする遠隔授業であった。1年間を通したリーディング指導の成果検証として、毎回の授業での指示ややりとりが記録されていく「投稿」、毎回の授業後に学生がOneNote（ノートブック機能）に記入するコメントシートを質的データとして分析した。

4. 結果と考察

4つの事例（音読2、多読1、書物との対話1）における学生の反応から、音読や多読が対面に近い身体性で実施できたことが確認された。学生の記述には自己開示・情動表出が頻出し、共同体の一員という意識が、入学後一度もキャンパスに入れなかった学生の情動的つながりへの渴望への癒しとなっていた様子が窺えた。対面でも継続して効果が期待できる手法への教育的示唆も得られた。さらに対面に戻った際、ジェスチャーや表情でのやりとりなど、本検証授業のような準備が不要で無意識かつ容易に活用できる身体性の価値を再認識することにもなった。遠隔授業で共同体の活性化は可能だという結論は得られたが、対面授業の利点を再評価しその利点を生かす意識を、外国語指導者は忘れてはならない。

参考文献

竹内理（2020）「何に着目すれば良いのだろうか」『英語授業学の最前線』, JACET 浅川他編, 73-91. ひつじ書房.

山田政寛・北村智（2010）「CSCL研究における『社会的存在感』概念に関する一検討」『日本教育工学会論文誌』 33(3), 353-362.

吉見俊哉（2021）『大学は何処へ』岩波新書.

LET 関西支部 研究部会によるシンポジウム

「New Normal 時代 LET 関西の各研究部会はこの新時代に どう立ち向かっていくのか」

パネリスト	基礎理論研究部会	金澤 佑 (関西学院大学)
	中高授業研究部会	今西 竜也 (京都教育大学附属京都小中学校)
	英語発音教育研究部会	西本 有逸 (京都教育大学)
	早期英語教育研究部会	有本 純 (関西国際大学)
	メソドロジー研究部会	井狩 幸男 (大阪市立大学)
	電子語学教材開発研究部会	浦野 研 (北海学園大学)
		木村 修平 (立命館大学)
		近藤 雪絵 (立命館大学)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的流行の影響により、これまでの日常は一変し、生活様式の変化だけでなく、人々の意識にも大きな変化をもたらしている。そこで、本シンポジウムでは、LET 関西支部 6 研究部会が考える、ニューノーマル時代の外国語教育、研究について、また、今後の研究部会の展望について情報共有していただき、参加者の皆さんと意見交換をしたい。

< 基礎理論研究部会 >

Making the Best and Most of the Pandemic

金澤 佑 (関西学院大学)

共同研究プロジェクトでは、「フォーミュラ (定型表現) と外国語学習・教育」をテーマに研究を行っており、2020 年には『フォーミュラと外国語学習・教育：定型表現研究入門』(くろしお出版)の出版を実現しました。現在は、フォーミュラの知識測定や学習システムなどより実践志向の共同研究に取り組んでいます。

一般公開の午後例会では、理論から実践まで及ぶ幅広いトピックをターゲットとしながら、皆様との活発な知的交流の場となることを目指して活動して参りました。2020 年 10 月にはフォーミュラについてのオンラインシンポジウムを主催し、2021 年 3 月には初の試みとしての海外と生中継で繋いでの研究例会 (Swiss Day) を行いました。コロナ渦を受けて現在は Zoom で例会を開催しており、地理的制約なくご参加いただけます。今後も、初参加歓迎で気軽に参加いただける学際的な知的交流の場となるべく、毎回異なるテーマで様々な発表や企画を検討しています。

★写真付き例会記録 (英語) はこちら: <https://let-kansai-fmt-sig.blogspot.jp>

★例会情報受信希望フォーム (日本語) はこちら: <https://forms.gle/oZvKaUJPGzXP9fqVA>

<中高授業研究部会>

ピンチはチャンス！

今西 竜也（京都教育大学附属京都小中学校）・西本 有逸（京都教育大学）

LET 関西支部には高等教育機関の会員だけでなく、小学校や中学校・高校にお勤めの現職教員が大勢いらっしゃいます。外国語教育の研究成果を自らの授業改善に役立たせようとする気運が伝統としてあります。中高授業研究部会はコロナ禍や VUCA の時代にあっても、ピンチをチャンスととらえ、地に足をつけた英語教育実践を探究してまいります。

コロナ下での学校授業の変化は、新型コロナウイルス蔓延防止のために、ペアで話し合う時はマスク・フェイスガードを着用したり、歌を歌えなくなったりしたことが挙げられます。一方で、ギガスクール構想による一人一台のタブレット端末の導入や、共同的な学びだけでなく、個別最適な学びの視点が求められるようになりました。

今回の発表では、タブレットを用いた Google Workplace for Education、スカラスティック社の英書サブスクリプション、授業支援アプリケーションを使った個別最適化とよりよい授業をめざした実践を紹介させていただきます。

<英語発音教育研究部会>

コロナ禍における発音指導

有本 純（関西国際大学）

1. はじめに

2020年4月以後、コロナ禍の影響で対面授業から、遠隔授業に移行せざるを得ない状況が長く続いた。この結果、発音を扱う授業は大きな影響を受け、指導の難しさという問題を抱えると同時に、利点も得ることができた。本シンポジウムでは、コロナ禍における発音指導の長所・短所を踏まえ、対面授業と遠隔授業を比較することにより、発音指導を行う際の留意点を指摘する。なお、遠隔授業はオンライン、ハイブリッド、オンデマンドの3つに分類している。

2. 教員側からの比較

1) 対面授業 (PC 教室使用)

- ・長所：様々な教材提示が可能、一斉・ペア・グループ練習が容易、学生の質問に即応できる
- ・短所：座席を空けるので人数に比べて広い教室が必要、マスクで口が見えない、声が届いて聞き取りにくい、マウスやキーボードを消毒する手間がかかる

2) リアルタイム・オンライン授業

- ・長所：マスクなしで口を見せることができる
- ・短所：Wi-Fi 状況に差が出る、図の描画に難、画面の切り替えに手間取る、試験で不正行為を見抜けない、画面が小さいので受講者の反応が把握しにくい、顔出ししない学生への対応

3) ハイブリッド授業

- ・長所：特になし

- ・短所：両者への公平な提示・対応・視線が難しい、テストで不正行為を見抜けない

4) オンデマンド授業

- ・長所：計画的・効率的な教材作成と進行、受講者数に制約がない
- ・短所：一方的提示への限界、テストで不正行為を見抜けない

3. 学生側からの比較

1) 対面授業

- ・長所：ペア・グループワークなど相互のコミュニケーションが容易＝横の繋がりができる
- ・短所：録音時に周囲の音が混じる、感染への心理的不安

2) リアルタイム・オンライン授業

- ・長所：マイク off で練習できる安心感、チャットで質問し易い、感染に対して安心して受講
- ・短所：録音状態に差が出る（機器や Wi Fi の個人差）、受講者間の繋がりに限界がある

3) ハイブリッド授業

- ・長所：授業参加形態に対して学生の意思が尊重される
- ・短所：オンライン受講者が対面受講者と同じ対応を受けられない

4) オンデマンド授業

- ・長所：繰り返し視聴・練習ができる、画面が見易い、録音・録画に取り組み易い、コロナ禍では安心して受講できる
- ・短所：教師からの反応がない、録音状態に差が出る、質問への回答に時差が出る、受講者間のコミュニケーションがない

<早期英語教育研究部会>

早期英語教育からみた生きたことばの習得

井狩 幸男（大阪市立大学）

早期英語教育研究部会は2001年4月に活動を始めました。今年で丁度20年を迎えます。これまで、小学校英語教育を始め早期英語教育に関心のある先生方にご参加いただいています。原則として隔月で年6回例会を開いています。その内5回を大阪市立大学文化交流センターで、残り1回を淡路島で実施しています。主な活動は、海外の早期英語関連文献の輪読です。最近隔年で専門家による特別講演会を開催し、発達障がいや脳科学の視点から言語習得について学ぶ機会を設けています。更に今年度は、早期英語プロジェクトを起ち上げ、設定したテーマを基に3つのチームに分かれて、LET 関西春季大会及び LET 全国大会で発表を行い、秋季大会でも発表予定です。今後もこのような活動を通して、LET 会員との意見交換や情報共有を行いながら、早期英語教育への貢献につなげたいと考えています。

今回のタイトルについて、少し説明させていただきます。「生きたことば」は「自然なことば」の意味とご理解ください。そもそもことばは生きているものですが、敢えて「生きたことば」と表現するのは、公教育で実施されている語学教育がメタ認知活動に比重を置き過ぎていることに、現場の指導者が気づいていないのではないかという懸念からです。本シンポジウムでは、生きたことばを習得するために何が必要かを、日頃早期英語教育研究部会で議論している内容を基に、お伝えできればと思います。

<メソドロジー研究部会>

メソドロジー研究部会の役割

浦野 研（北海学園大学）

メソドロジー研究部会（メソ研）は、研究の方法論に焦点を当て、研究をどのように行うべきか検討し、発表し、議論する機会をこれまで提供してきた。メソドロジーは研究分野を問わず重要なテーマであり、特定の分野に特化していないという特徴を活かし、関西を拠点としつつもこれまで全国各地で研究会を開催し、多くの研究者とのネットワークを構築してきた。

年に数回開催する研究会では、毎回質疑応答の時間を長くとることで活発な意見交換を行ってきたが、コロナ禍でそのような交流が難しいこともあり、2020年度は研究会が行えない状態が続いた。2021年度に入り Zoom を利用した遠隔開催という形で研究会を再開しているが、従来のようにざっくばらんに議論を行うにはまだまだ工夫が必要と言える。

今回のシンポジウムでは、最近の研究会の様子を紹介し、メソ研が今後どのような活動を行うべきかについて現在考えていることをお話しし、他の登壇者や参加者からもご意見をうかがいたい。

<電子語学教材開発研究部会>

コロナ禍で不可逆となった教育 ICT 活用: 電語研の使命と今後

木村 修平（立命館大学）・近藤 雪絵（立命館大学）

電子語学教材開発研究部会は2012年5月に発足しました。通称を電語研と申します。

電語研では、語学教員の仕事に役立つ情報通信（ICT）機器やソフトウェア、デジタルテクノロジーに関するトピックを毎回の研究会でとりあげています。発足以来、年間3~4回程度の頻度で研究会を開いており、2021年9月時点で36回を数えます。

電語研ではテクノロジーの発展動向に注目し、できるかぎり最先端のトピックを扱うように努めてまいりました。コロナ禍は、世界的な厄災ではあったわけですが、教育 ICT 活用の必要性が急速に高まり、その可能性に大きな注目が集まったという点において、電語研でこれまでに培った知見の多くを役立てることができたのではと思います。

コロナ禍により、教育現場のテクノロジー環境やリテラシーレベルは強制的に引き上げられました。ほとんどの教員が、これまでに実践したことのないオンライン授業というものを経験し、使ったことのないソフトやツールを仕事道具として活用せざるを得ない状況に置かれました。コロナ禍は、語学教育から何を奪い、何をもたらしたのでしょうか？語学教員の仕事は、コロナ禍前後でどのように変化したのでしょうか？そして、電語研はこうした時代に何ができるのでしょうか？

本シンポジウムでは、限られた時間ではありますが、過去の研究会の知見を踏まえつつ、こうした点を考えてみたいと思います。